

(別記様式第 15 号)

令和 3 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

王滝村

No.	事業項目	事業名
	森林を支える豊かな地域づくりに関する事業	令和 3 年度 緩衝帯整備事業
事業費 2, 134, 000 円		(うち支援金: 591, 000 円)

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

当該地域は山林及び村道に挟まれた場所であるとともに、付近には人家もあり広域的な森林施業が困難である。

併せて、この付近における農地では有害鳥獣による被害が多く発生していることから、整備が必要な区域である。

(2) 本事業の目的

有害鳥獣が出没しにくい環境をつくることで農林業被害の軽減を図り、村内緩衝帯整備 5 ヶ年計画に基づき今年度は山田地区において 4.456ha (山田上 3.381ha、山田下 1.075ha) を整備する。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所

王滝村山田地区

(2) 対象者

山田地区住民

(3) 実施方法

刈払機等を用いて人力により、笹や支障となる低木の除去を行う

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画 (平成 30~34 年度) ※ (平成 30 年度~令和 4 年度)

緩衝帯整備 20 ha

②令和 3 年度計画

緩衝帯整備 4.86ha (実施面積 4.456ha)

■山田（上）地区

< 施行前 >



< 施工後 >



< 施行前 >



< 施工後 >



< 施行前 >



■山田（下）地区 < 施行前 >



< 施工後 >



< 施行前 >



< 施工後 >



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施による効果

加害鳥獣が出没しにくい環境をつくることで被害の軽減と森林整備に対する森林所有者の意識向上に繋がる。

(2) 継続性

定期的な維持管理を行う予定であり、効果の継続性は見込まれる。

(3) 普及性

山田地区の農家の方々をはじめ、地域住民に対して被害対策となる緩衝帯整備の必要性を周知できると考えられる。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

里山整備を行った結果、農地周辺の有害獣出没が減少した。

またこの付近は村内に居住されていない地主多く、日頃から十分な整備が行き届かない山林等見通しも良くなり環境整備の観点からも評価されているとみられる。また、整備地付近には学校通学路もあり、その安全性も確保された。

(2) 課題

今後さらに森林所有者の高齢化が進み手入れが行きとどかない森林が増加する傾向にあることから計画的な整備が必要となる。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

今後も事業を継続し森林所有者や農業経営者に里山整備と併せて広くアピールし有害獣による被害軽減や出没しにくい環境づくりを進めていきたい。

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)